



市川房枝政治参画フォーラム 2017

# 公教育の理念を生かすために

多様性を認める共生社会に異議を唱える動きが国境を越えて広がってきています。次世代の主権者である子どもたちの教育現場にその影響が出ていないでしょうか。今回のフォーラムでは、「公教育の実施主体としての自治体の課題」「ICT(情報通信技術)にまつわる子どもの事件が社会問題化する中でネット社会と子どものメディア・リテラシー」「政治教育先進国スウェーデンの教科書と主権者教育」を、またカレントピックスとして「自治体行政におけるジェンダー平等」を取り上げます。すべての自治体で総合教育会議が動き出し、自治体は様々な方向に進み始めましたが、公教育の理念を実践するのは自治体の責務でもあります。平和で持続可能な共生社会への歩みにつなげるように、共に学び自治の現場で実践していきましょう。

とき **5月19日(金)**・**20日(土)**

ところ 婦選会館 最寄駅: JR線/代々木駅北口、新宿駅南口・新南口下車徒歩約7分 **道順はセンターHP参照**  
小田急線/南新宿駅下車徒歩約3分 地下鉄都営新宿線・大江戸線/新宿駅A1下車徒歩約3分

対象・定員 自治体議員及びその支援者、テーマに関心のある人(主に女性)約40名(受付先着順)

## プログラム

**第1日 5月19日(金) 開場 12時**

13:00~13:15 ガイダンス・主催者あいさつ

13:15~15:45 基調講演 **公教育の実施主体としての地方自治体** 教育行財政研究所主宰 **中村文夫氏**

16:00~17:30 カレントピックス **自治体行政におけるジェンダー平等—「男女共同参画社会」の実現はいつ?!**  
早稲田大学他非常勤講師 **皆川満寿美氏**

17:40~19:00 交流会(自由参加)

**第2日 5月20日(土)**

10:00~12:00 講演 **ネット社会における子どものメディア・リテラシー**  
—ジェンダーの視点も含めて— 早稲田大学教授 **高橋恭子氏**

13:00~15:00 講演 **スウェーデンの小学校社会科教科書を読む**  
—投票率85.8%の国では、小学校で何を教えているのか— 明治大学教授 **鈴木賢志氏**

15:10~15:55 ディスカッション

15:55~16:00 閉会

参加費 ■17,280円(税込。現職議員以外の方は8,640円)交流会参加費は別途2,500円(税込)

備考 ▼参加希望者は**5月15日(月)まで**に、①参加費の払込み、②裏面の申込用紙の送付をお願いします。

**お払込みが遅れる場合は必ずご一報ください。**

**[振込み先]**郵便振替 口座番号 00170-0-561022 口座名 (公財)市川房枝記念会女性と政治センター

ゆうちょ銀行〇一九店 当座 0561022 口座名 (公財)市川房枝記念会女性と政治センター

三菱東京UFJ銀行 新宿中央支店(普)5562919 口座名 公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター

▼原則2日間通してのお申込みを優先し、席に余裕があれば1日だけの参加もお受けします。▼納入後の参加費はお返しできません。ご欠席の場合は代理の方にご出席いただけます。もしくは1年以内の他のフォーラムに振り替えが可能です。

▼お申込み、お問い合わせは下記まで。▼講師の都合などにより変更がある場合はご了承ください。

主催：公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター

東京都渋谷区代々木2-21-11 婦選会館 〒151-0053

電話 03-3370-0238 FAX 03-5388-4633

E-mail fitikawa.moushikomi@fork.ocn.ne.jp URL <http://www.ichikawa-fusae.or.jp> (2017.3)

## 市川房枝政治参画フォーラム 2017：公教育の理念を生かすために

### 講師プロフィール



#### 中村文夫(なかむら ふみお)氏

1951年、埼玉県生まれ。立教大学法学部卒。現在、教育行財政研究所主宰、専修大学非常勤講師等。専門は教育行財政学。義務制の公立学校事務職員を38年間経験する。現在の主要な関心は、子どもの貧困、少子化、公教育の無償化、地域の中の学校、学校職員の非正規化、チーム学校。著書は『子どもの貧困と公教育』(明石書店)、『学校財政』(学事出版)、『市場化する学校』(八月書館、編著)、『公教育の市場化・産業化を超えて』(八月書館、共著)、『公教育改革への提言』(八月書館、編著)など。

#### 皆川満寿美(みながわ ますみ)氏

1961年、東京都生まれ。1995年お茶の水女子大学大学院博士後期課程単位修得退学。大学非常勤講師として首都圏の大学複数でジェンダー系授業を担当する他、自治体や女性団体での講座経験多数。共編著に『「ジェンダー」の危機を超える！—徹底討論！バックラッシュ』(青弓社、2006年)など。近著に、「第3次男女共同参画計画改定／第4次男女共同参画基本計画策定について」(『ジェンダー法研究』第2号、2015年)、「女性活躍推進法の成立—『成長戦略』から『ポジティブ・アクション』へ」(『国際ジェンダー学会誌』第14号、2016年)。



#### 高橋恭子(たかはし きょうこ)氏

早稲田大学政治経済学術院教授。ビジネス・ウィーク東京支局、フリーランス・ジャーナリスト、慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授、早稲田大学川口芸術学校校長を経て、現在に至る。専門領域は映像ジャーナリズム、次世代ジャーナリズム、メディア・リテラシー。最近はとくに、米国の非営利独立メディアを含む新たなジャーナリズムのあり方やネット上の情報やニュースを読み解くリテラシー教育に関心を寄せている。映像作品に『リンダとモリー』(第11回ハワイ国際映画祭上映)、『次世代テレビの新風』、総務省メディア・リテラシー教材『私たちのメッセージを伝えよう～公共広告をつくる』、著書(共著)に、『Perspectives on Media Literacy』(Nordicom)、「メディア・リテラシーの教育の挑戦」(アドバンテージサーバー)等がある。FCTメディア・リテラシー研究所、日本こども映画コンクール等の審査員を務める。



#### 鈴木賢志(すずき けんじ)氏

1968年、東京都生まれ。政治・国際研究博士(PhD)。1992年に東京大学を卒業し、日本企業に3年間勤務した後、英国ロンドン大学に留学。その後、英国ウォリック大学を経て、1997年から2007年までスウェーデン、ストックホルム商科大学欧州日本研究所で研究・教育に従事。2007年から2008年にかけて英国オックスフォード大学客員研究員を経て帰国し、現在明治大学教授。2015年より一般社団法人スウェーデン社会研究所の代表理事・所長に就任。近年は主として日本とスウェーデンを中心に、先進諸国の社会システムと大衆心理を比較研究している。近著に『日本の若者は希望をなぜ持てないのか』(草思社、2015年)。

### -----参加申込書-----

ふりがな お名前			
連絡先	住所	(〒 )	
	電話	FAX	
	メール		
受講歴	はじめて参加	・	前に参加したことがある
現職議員	自治体名		
	所属党派	党籍 有( ) ・ 無	
議員以外	活動など(	)	
参加費 払込方法	郵便振替	・	銀行振込
	払込金額	参加費(17,280円/8,640円) + 交流会参加費(2,500円) =	円
<b>*参加費:現職議員以外は8,640円</b>			
参加の きっかけ	議会事務局より	・	当センターからの案内
	その他(	・	『女性展望』誌上
		・	当センターHP
			)

備考(要望など)

FAX 03 - 5388 - 4633